ふるさとの文化財散歩

いよいよ新緑の季節となりました。今月は、すがすがしい気分で、散歩がてら、ふるさとの偉人が眠る墓所を訪ねてみてはいかがでしょうか。

雨宮六園の墓

○市指定文化財第十三号史跡

雨宮六園は、もともと津軽藩の儒臣で、沼津藩主水野出羽守に招かれましたが、故あって、水野氏の採禄を断りました。諸国を漫遊したのち、雨宮氏の家名を継ぎ、甲府学問所「甲府徽典館」石和教諭所の教師をしていましたが、谷村代官佐々木道太郎の招きによって嘉永四年（一八五一）に谷村陣屋（今の裁判所付近）内の教諭所「谷村興譲館」の初代教授となりました。十二年間の在職中に多くの門弟を教育しましたが、学問ばかりでなく、政治経済の指導者としても活躍し、文久三年（一八六三）九月八日に七十四才の生涯を終え、普門寺に葬られています。

その後、谷村興譲館は、明治四年（一八七一）十二月に谷村学校として受け継がれるまで郡内の教育振興に貢献し、現在の都留市の学校の始祖となりました。

森島其進の墓

○市指定文化財第十四号史跡

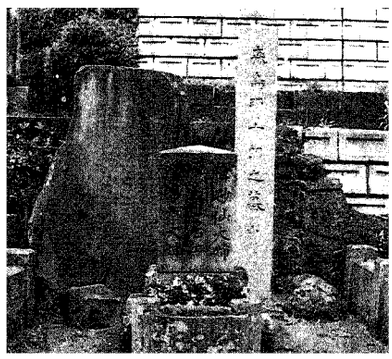
森島其進（森島弥十郎）は宝暦十一年（一七六一）下谷村の絹問屋「嶋屋」森島利八の長男として生まれ、幼少の頃から学才に優れ、漢学にも精通し、江戸にも遊学しました。家の事情で其進は学なかばにして谷村に戻り、家業を継ぎ、商売は盛んとなりましたが、学問の道はすてがたく、商売を弟の理八にゆずり、谷村陣屋内に「朋来園」という私塾を開いて子弟の教育にあたりました。

文化十一年（一八一三）現在の県史にあたる「甲斐国志」の郡内編さん主任を命ぜられ、私財まで投じて完成させました。

また、天明七年（一七八七）の飢饉で人々が飢で苦しむ惨状をみて、米三九〇俵を出し、谷村陣屋前で粥の炊き出しをして、多くの人々の命を救いました。

このような其進を人々は「なさけの嶋屋」と敬い、はやり唄にまでになったといいます。

文政四年（一八二一）十月十三日、多くの門下生に看護されながら、学者、教育者としての六十歳の生涯を終え、専念寺に葬られています。



ふるさとの祭 5月

5日　端午の節句（市内各地）
　　石船神社祭礼（朝日馬場）
13日　儀秀稲荷大祭（西涼寺）
　　花まつり（耕雲院）
20日　観音講（長安寺）
　　つる子どもまつり（都留文科大学他）
28日　鬼子母神祭（信行寺）

シンポジウム「勝山城とお茶壷蔵」開催

市民の憩いの場所として、また城下町つるのシンボルとして親しまれているお城山には、小山田氏の要害城（非常の場合たてこもる城）勝山城が築城されていました。

頂上付近にはお茶壷蔵があったと言われています。

昨年、お茶壷蔵の発掘調査が実施されるなど、勝山城や茶壷蔵そして茶壷道中について調査研究がすすめられています。

このたび、都留市文化財審議会委員がパネラーとなり、シンポジウムを開催しますので皆さまのご聴講をお願いします。

パネラー
窪田　薫氏
　―勝山城の歴史について―
奥　隆行氏　―勝山城茶壷蔵発掘調査の成果について―
内藤恭義氏―茶壷蔵と茶壷道中について―

日　時　5月20日（日）
　　午後1時～4時
会　場　文化会館三階ホール
参加費　無料
主　催　都留市教育委員会
　　都留市郷土研究会

歴史教室

郡内の歴史を探る―勝山城を中心として

市民の皆さんに郷土の歴史について理解を深めていただくため、歴史教室を開催いたします。

第一回　6月2日（土）
テーマ―古代の都留郡について―
講　師　窪田　薫氏

第二回　7月7日（土）
テーマ―小山田氏と郡内について―
講　師　棚本安男氏

第三回　8月4日（土）
テーマ―鳥居・浅野氏と郡内について―
講　師　窪田　薫氏

第四回　9月8日（土）
テーマ―秋元三代と郡内について―
講　師　内藤恭義氏

第五回　10月6日（土）
テーマ―天領期の郡内について―
講　師　滝本光清氏

会　場　文化会館三階ホール
時　間　午後2時～4時
参加費　無料
主　催　都留市教育委員会
　　都留市郷土研究会